

アフリカ現代史I

第4回

大航海時代と奴隷貿易

講義の主なねらい

- ポルトガルはなぜアフリカへ進出したのか
- 大西洋奴隷貿易はどのように行われたのか、どのように終焉したのか
- 大西洋奴隷貿易がアフリカ大陸・アフリカ人へもたらした問題は何なのか

1 大航海時代とは

- 15C末～ イベリア半島の2つの国(スペイン & ポルトガル)を筆頭に北西ヨーロッパ諸国が探検、略奪、植民、商取引などで海外へ進出
- 数々の地理上の「発見」を経て、やがて世界が「近代世界システム」とよばれる一つの構造になった時代
- 様々な探検家が活躍

2 ポルトガルの東西アフリカ進出

(1) インド航路

- 1415年8月 ポルトガル ジブラルタル海峡対岸のセウタ占領👉大航海時代の幕開け
- 1437年 エンリケ航海王子とドウアルテ国王 モロッコのタンジールを侵略しようとしたが失敗
- セウタ占領後も南部モロッコから南下できず
- 地中海沿岸の北アフリカ攻防 ポルトガルには有利に働かず、西アフリカ攻略を画策

- インド洋西域ではアラブ人、スワヒリ人の船乗りたちが活躍

- 1434 ボハドル岬を越えて南下したポルトガルのキャラベル船(軽快帆船)がリスボンに帰還→半世紀の間にギニア湾到達し、さらに南進
- 1471 ゴールド・コースト到達
- 1488 ディアズ 喜望峰を「発見」
- 9年後 ダ・ガマが喜望峰を迂回し、1497年のクリスマスにナタール沖を通過、1498年4月にマリンディ(ケニア)に到着→1498インド到着
- 1509 フランシスコ・アルメイダ率いるポルトガル艦隊がインド洋上に現れ、グジェラートとエジプトの連合艦隊を破り、海上覇権を獲得
- 1510 ポルトガル ゴアを占領

(2) 動機と目的

- 国際貿易に関する商業的関心
- とくに黄金、その他に香料、食糧(砂糖、小麦)、木材(燃料、造船資材)、衣料、蛋白源となる新たな漁場
- 地中海東域 イスラーム教徒、ベネチア人が海上支配
- プレスター・ジョン伝説 東方におけるキリスト教王国の伝説 12～17Cのヨーロッパで普及
- 海路 バストロメウ・ディアス →喜望峰「発見」
- 陸路 ペロ・ダ・コヴェリャンとアルファンソ・デ・パイヴァ →ダ・ガマのインド洋航路発見に重要な情報となる

(3)なぜポルトガルは海外進出の指導権を握ることができたのか

- 地理的条件 イベリア半島の先端 海流が集中、海上への進出が容易
- エンリケ(航海)王子(1394~1406)の存在
- ポルトガルが地中海域のイスラーム経済と結びつく、貨幣経済が最も発達
- 政治的環境
- ベネチアと対抗関係にあったジェノバの商人たちと協力(ジェノバの商人はスペイン人の事業にも投資)

◎16C末にオランダ、イギリス、フランスが海外進出を進めるまで大西洋とインド洋で強大な商業帝国を築く

2 大西洋奴隷貿易

(1) アフリカにおける奴隷制をめぐる2つの学説

1) アフリカ社会にはほとんど奴隷はいなかった: ウォルター・ロドネー(ガイアナ)など

- アフリカ社会がどれを持つようになったのは奴隷貿易を結び付いた結果

2) 大西洋奴隷貿易以前にもアフリカに奴隷はいた: ジョン・フェイジ(イギリス)、ジョン・ソートン(アメリカ)など

- アフリカ 土地が豊富 労働が希少
- 富裕者＝土地を拓き、農場を経営するには必要な労働者が動員できる
- 労働者確保 賃金労働は前近代では一般的ではなかった

(2) 大西洋奴隷貿易以前の奴隷貿易

- サハラ以南アフリカ→北アフリカ、中東、アジアへの奴隷の移送 古くからおこなわれていた
- 7Cイスラームの台頭(800年)～1600年までの400年間 どのくらいのアフリカ人が奴隷としてサハラ砂漠を越えて、移動したかは定かではない
- イスラーム教徒の指導者 非イスラームの奴隷を改宗させ、イスラーム社会のメンバーに

北アフリカ・中東・アジア向け奴隷輸出 800－1900年（単位 1000人）

出所）P. Lovejoy, Transformations in Slavery, 3rd ed UP, 2012

年	サハラ砂漠経 由、北アフリカ	紅海地方	東アフリカから インド洋	小計
800－1600	4670	1600	800	7070
1601－1800	1400	300	500	2200
1801－1900	1200	492	1618	3310
小計	7270	2392	2918	12580

- 17C以降 奴隷数の推計 次第に信頼できる数字に
- 1450～1900年 大西洋奴隷貿易 1131万人の
アフリカ人奴隷が南北アメリカへ
- 800～1900年 アフリカから北アフリカ、中東、アジアへ総数で1258万人の奴隷が運ばれた

(3) 大西洋奴隷貿易の実態

大西洋奴隷貿易本格化

- 1518 スペイン、西インドに最初の奴隷船を配備
- 1532 ポルトガル 西インド諸島へ奴隷の直接搬送
- 16C後半 オランダ、イギリス 奴隷貿易に参入
- 奴隷の貿易数は16C中頃から急増、18C最大数に

「三角貿易」の発展

- ①ヨーロッパの工業製品をアフリカへ持込み、奴隷と交換
- ②アフリカ人奴隷が大西洋を渡る「中間航海」を経て南北アメリカへ。
- ③砂糖、タバコ、綿花、その他の主要換金商品を積み込んで、西ヨーロッパへ

大航海時代ののち世界が1つに結ばれた結果、大西洋では奴隷貿易を含む三角貿易が成立した。



- 奴隷貿易期間に大西洋を渡ったアフリカ人の数
- 諸説あり: おおむね 1200万～2000万人ほど
- 奴隷輸出の量的変化: 17C 286万8000人、18C 743万3000人
- 輸出された地域: ブラジル38%、カリブ海諸国31%、スペイン領アメリカ16%、アメリカ合衆国5%

☞ これらの数には奴隷狩りや輸送途中で殺害されたり、死亡した人の数は含まれていない、実際の被害者の数は統計よりさらに多い

- 奴隷の出身地
- 西－中央アフリカ: ガビンダからロアンゴ 重要な供給地、1600～1800 約250万人が輸出(全体の4分の1)、18Cには205万7700人(全体の40%)
- 西アフリカ海岸地帯(セネガンビア、シエラレオネ、ゴールドコースト、ベニン湾、ビアフラ湾含む)
- ベニン湾の輸出は17C後半から増加、18Cには127万8600人(全体の23%)
- ゴールドコースト: 18C 67万7400人
- マニングの計算では、奴隷にされたアフリカ人のうち、44.6%が輸出、55.4%はアフリカに残留

(4) 奴隷貿易に対する反応

- 協力者 奴隷貿易に協力する王や商人 奴隷貿易と国家の拡張が結びつくケースあり: カネム・ボルヌ、オヨ、ダホメ、ベニン、アサンテなど
- 奴隷の抵抗: 奴隷船での反乱(10回の航海で1回ほど)

- 奴隷の抵抗を恐れ、足枷、銃、大砲、奴隷監視員など多額の資金投資

奴隷貿易を削減または停止させる試み

- 1526 バコンゴ王国のヌジンガ・ムベンバ
- 18C初 ダホメのアガジャ王
- 1780 フタ・トロ王国の国王 支配地での奴隷貿易停止する法律を制定

(5) アフリカ社会への影響

人口 1300万人以上の人間がアフリカから移動させられた→もし奴隷貿易がなければアフリカの人口は現在の2倍

経済

- 労働人口の喪失 特に職人と農民
- 農業生産力の低下、伝統的手工業の衰退

◎最大の被害は、アフリカ人を人間として認めないこと→極度に差別的な考え 定着

主な参考文献

- 宮本・松田編『新書 アフリカ史』 講談社新書
- 小田他『アフリカ』第2版、自由国民社
- 池本他『近代世界と奴隷制—大西洋システムの中で』人文書院